

## 写真

近藤花

私のおばあちゃんの家にはたくさんのお写真が飾ってあります。大きな石が転がった坂やボロボロの自転車の写真などどれもおしゃれとは言い難く地味な写真ばかりです。ある日おばあちゃんに聞いてみると微笑みながら答えてくれました。

「これは私の思い出だよ。」

私はその時、昔使っていた大切なものなのかなと思いました。

翌年、おじいちゃんが階段から足を滑らせて亡くなりました。翌日のお通夜でおばあちゃんの家に行ったとき写真が一枚増えていることに気づきました。その写真は階段の上にボールがおいてある写真でした。その階段はおじいちゃんが足を滑らせたところでした。

お通夜の夜、近所の人たちが集まって話していました。横を通ったときに話し声が聞こえてきました。内容は、最近事故が多いということでした。二年前に亡くなったお隣のおばあちゃんは車が横転して亡くなっており、

五年前に亡くなったおばあちゃんの旧友のおじさんは自転車のパンクが原因で転んで亡くなったそうです。さらに聞いてみると、どれもおばあちゃんの家にある写真と関係のある死因でした。

私はあのおばあちゃんが微笑みながら答えた理由がわかったのです。そしてその瞬間知ってはいけない秘密を知ってしまったのではないかと思いました。この秘密を唯一知っている私が次に狙われるのではないかと不安になり、おばあちゃんの家から急いで逃げ出したのです。しかし玄関で思いつき転んでしまい、その直後頭を強打し意識を失いました。私が頭を強打した直後におばあちゃんの悲鳴と鳴き声とともにみんなの心配する声が聞こえました。

このときおばあちゃんは本当に悲しんでいたのでしょうか。心のなかでは喜んでいたのではないのでしょうか。

次の日からおばあちゃんの家には玄関の写真が飾られるようになったのです。